後水尾天皇の行幸

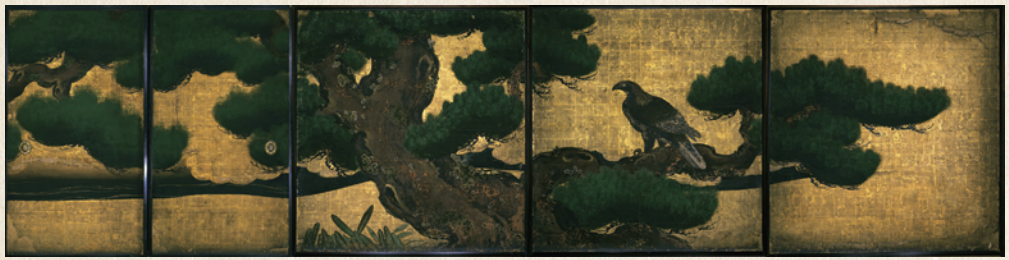
天皇の外出のことを「行幸」と言います。二条城においては、1626年（寛永3年）9月、上洛中の徳川秀忠、家光の招きに応じ、後水尾天皇が行幸しました。2代将軍秀忠の娘であり、天皇の中宮となった和子らと5日間滞在し、能や和歌などの会が賑々しく催されました。行幸を迎えるにあたって、2年前から城を現在の広さまで拡張し、天守閣や行幸御殿、本丸御殿なども造営されました。また、狩野派の見事な障壁画も行幸に際して新たに描かれたと言われています。その後、行幸御殿等は移築され、天守閣、本丸御殿等は焼失しましたが、二の丸御殿は今も往時の風情を伝えています。

大正天皇即位の大典

大正4年（1915年）、京都御所の紫宸殿で、大正天皇の即位の儀式が行われ、その後の饗宴が二条城で開かれました。この一連の行事のことを「大正大礼」と言います。饗宴には皇室関係者、各国の要人や総理大臣が招かれ、当時、天皇の別荘として利用されていた二条城で、新たな天皇の即位を華やかにお祝いしました。饗宴のために様々な建物が新築されましたが、直後に移築または撤去され、現在は南門だけが残っています。

「世界遺産・二条城一口城主募金」ご協力のお願い

京都市では，世界遺産・二条城を次代へ保存・継承していくために国宝・二の丸御殿をはじめとする文化財建造物等の本格修理事業に平成23年度から取り組んでおります。
今回の本格修理は，築城以来の大修理であり、多大な資金と長い年数が必要となります。
そのため、修理に当たっては、「世界遺産・二条城一口城主募金」を募っております。皆様の温かいご支援、よろしくお願い申し上げます。



「松鷹図」大広間 四の間



【アクセス】
京都市営地下鉄「二条城前駅」下車
市バス「二条城前」下車

【開城時間】
◆入城時間
午前８時４５分から午後４時まで
（閉城午後５時）

京都市元離宮二条城事務所
〒604-8301
京都市中京区二条通堀川西入
二条城町 541 番地
TEL:075-841-0096 FAX:075-802-6181
URL:https://nijo-jocastle.city.kyoto.lg.jp/

京都市印刷物 第 043125 号
令和4年12月

京都市 CITY OF KYOTO　文化庁京都へ

元離宮二条城は
徳川家の栄枯盛衰と
日本の歴史の移り変わりを
見守ってきたお城です

世界遺産 元離宮二条城





二条城

は1603年(慶長8年)、江戸幕府初代将軍徳川家康が、天皇の住む京都御所の守護と将軍上洛の際の宿泊所とするため築城したものです。将軍不在時の二条城は、江戸から派遣された武士、二条在番によって守られていました。

3代将軍家光の時代、後水尾天皇行幸のために城内は大規模な改修が行われ、二の丸御殿にも狩野探幽の障壁画などが数多く加えられました。壮麗な城に、天皇を迎えることで、江戸幕府の支配が安定したものであることを世に知らしめたものです。

1867年(慶応3年)には15代将軍慶喜が二の丸御殿で「大政奉還」の意思を表明したことは日本史上あまりにも有名です。

二の丸御殿、二の丸庭園、唐門など、約400年の時を経た今も絢爛たる桃山文化の遺構を見ることができます。1994年(平成6年)、ユネスコ世界遺産に登録された二条城は、徳川家の栄枯盛衰と日本の長い歴史を見つめてきた貴重な歴史遺産と言えます。

大政奉還



1867年(慶応3年)10月14日、江戸幕府15代将軍徳川慶喜が政権を朝廷に返上することを申し出て、翌15日に朝廷が許可し、江戸幕府の幕は降ろされました。これを日本史上、大政奉還と呼んでいます。

徳川家康が朝廷から征夷大将軍を宣下されて以来、政治の大権を天皇から徳川家が預かる形で、日本の統治者として君臨してきましたが、幕末、薩摩藩と長州藩が同盟を結んで討幕運動を始め、土佐藩からは慶喜に大政奉還の意見書が提出されました。それを受けて幕府は、10月13日、二条城二の丸御殿大広間に、在京していた40藩の重臣を集めて意見を聞き、翌々日、大政奉還が成立したことで、一旦は討幕の動きは弱まりましたが、やがて江戸無血開城へと至りました。

二条城年表

1601年 慶長6年 徳川家康が西日本の諸大名に二条城の築城を課す。

1603年 慶長8年 二条城完成(現在の二の丸部分)家康初めて入城。


徳川家康

1611年 慶長16年 家康が豊臣秀頼と会見。

1614年 慶長19年 元和元年 城内で大坂冬の陣・夏の陣の軍議を開き、当城より出陣。


徳川家光

1624年 寛永元年 秀忠が、城の拡張・殿舎の整備に着手(寛永の大改修)。

1626年 寛永3年 本丸・二の丸・天守閣完成。現在の規模となる。9月、後水尾天皇二条城行幸(5日間)。

1634年 寛永11年 家光、30万人ともいわれる大軍を率いて入城。

1750年 寛延3年 8月、雷火により五層の天守閣焼失。


徳川家茂

1788年 天明8年 1月、市中の大火により本丸御殿などが焼失。

1863年 文久3年 14代将軍家茂入城(3代将軍家光が入城して以来の入城)。

1866年 慶応2年 城内において慶喜15代目の将軍職を継ぐ。

1867年 慶応3年 10月、慶喜が二の丸御殿で大政奉還の意思を表明した。

1868年 明治元年 1月、城内に太政官代を置く(現在の内閣にあたる)。

1871年 明治4年 二の丸御殿内に府庁を置く(のち一時陸軍省になる)。

1884年 明治17年 皇室の別邸「二条離宮」となる。


二の丸御殿

1893年 明治26年 京都御所の北東にあった桂宮御殿を本丸に移築し、本丸御殿とする。翌年完了。

1915年 大正4年 大正天皇即位の大典が行われ大饗宴場を造営(現清流園の位置)。南門ができる。

1939年 昭和14年 宮内省が二条離宮を京都市に下賜。

1940年 昭和15年 2月11日恩賜元離宮二条城として一般公開をはじめる。

1952年 昭和27年 文化財保護法の制定により、二の丸御殿6棟が国宝に、東大手門など22棟の建物が重要文化財に指定される。

1953年 昭和28年 二の丸庭園が特別名勝に指定される。

1965年 昭和40年 清流園造成。


二の丸庭園

1982年 昭和57年 二の丸御殿の障壁画が重要文化財に指定される。

1994年 平成6年 ユネスコの世界文化遺産に登録される。

2005年 平成17年 築城400年記念 展示・収蔵館 開館。(現在の二条城障壁画 展示収蔵館)

2011年 平成23年 二条城本格修理事業に着手

城内の文化財(全域が世界文化遺産及び史跡)

- ◆二の丸御殿(6棟) …… 国宝(建造物)
- ◆東大手門等(22棟) …… 重要文化財(建造物)
- ◆二の丸御殿障壁画(1016面) …… 重要文化財(美術工芸品)
- ◆二の丸庭園 …… 特別名勝(庭園)

施設の規模

【総面積】275,000㎡

- ・外周 約2km
- ・東西 約600m
- ・南北 約400m

城内　マップ

写真撮影お勧めポイント　喫茶　お土産もの／喫茶

⑧ 清流園

京都の豪商・角倉家の屋敷跡から建築部材、庭石、樹木を譲り受け、1965年（昭和40年）に作庭しました。香雲亭、茶室和楽庵がある和風庭園と芝生の洋風庭園からなる和洋折衷庭園です。



香雲亭



⑦ 天守閣跡

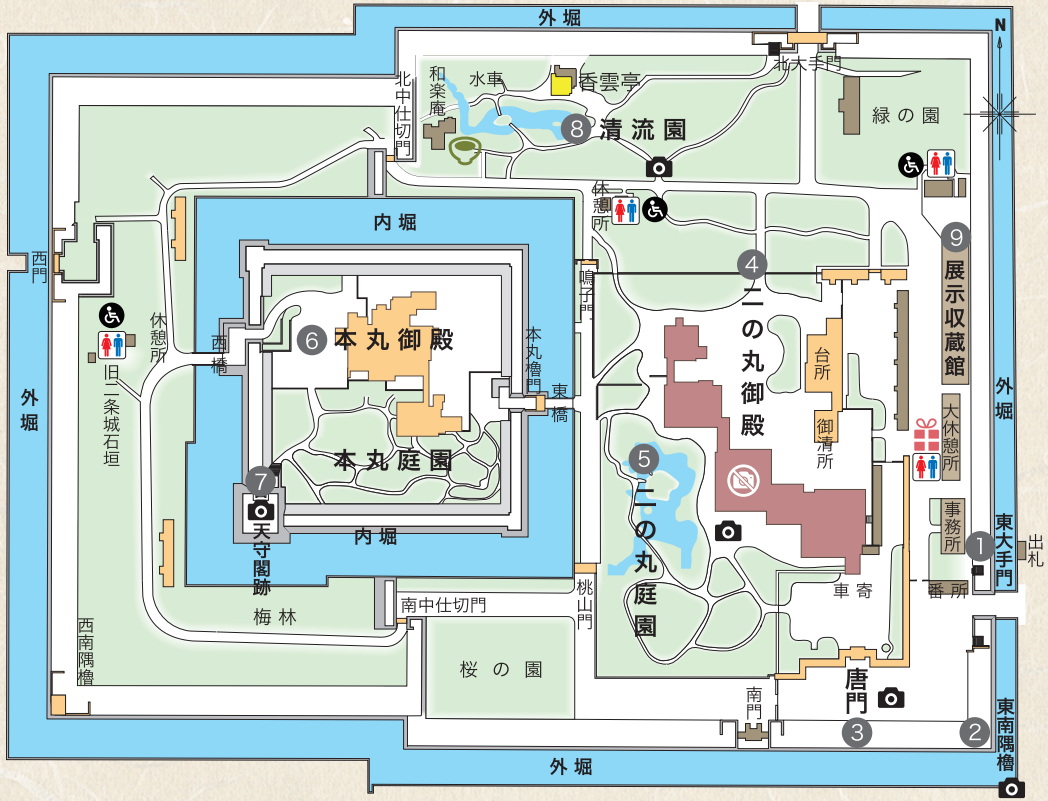
本丸の南西隅には、かつて伏見城から移された五重六階の天守閣がありましたが、1750年（寛延3年）に落雷により焼失しました。その後は再建されることなく、現在は石垣だけが残されて、本丸御殿と本丸庭園、京都の街の景色を見渡すことができます。



⑥ 本丸御殿［重要文化財］ 本丸庭園

内堀に囲まれた広さ20,000㎡の本丸にある「本丸御殿」は、1893年（明治26年）に京都御所の北東部にあった桂宮御殿を移築したものです。貴重な宮家の御殿建築の遺構として重要文化財に指定されています。本丸御殿の南側の「本丸庭園」は、明治天皇の行幸の際に、枯山水庭園から大改造した庭園です。東南隅に築山を配し、芝生を敷き詰めて曲線的な園路を設けた優美な造りが四季折々の風情を感じさせてくれます。





⑨ 二条城障壁画 展示収蔵館

障壁画（原画）を収蔵し、展示する施設で、二の丸御殿の障壁画を間近で鑑賞することができます。

※年４回、計240日公開



① 東大手門［重要文化財］

二条城の正門にあたり、現存の門は1662年（寛文2年）頃の建築と考えられています。築城当時は現在のように櫓門（2階建て）でしたが、寛永の二条城行幸時には天皇を2階から見下ろさないようにとの配慮から、一重の門に建て替えられたと言われています。



② 東南隅櫓［重要文化財］

二条城の外堀の四隅は、見張り台としての隅櫓が建てられ、普段は武器庫として使われていました。1788年（天明8年）の大火で多くの櫓が焼失してしまい、今ではこの東南隅櫓と西南隅櫓の2つが残るのみです。



③ 唐門［重要文化財］

二の丸御殿の正門にあたり、切妻造、桧皮葺の四脚門でその屋根の前後に唐破風が付きます。門には長寿を意味する「松竹梅に鶴」や、聖域を守護する「唐獅子」など、豪華絢爛な極彩色の彫刻を飾ります。2013年（平成25年）の修復工事によって、往時の姿によみがえりました。



⑤ 二の丸庭園［特別名勝］

池の中央に蓬莱島、左右に鶴亀の島を配した書院造庭園です。1626年（寛永3年）の後水尾天皇行幸のために作事奉行・小堀遠州のもとで改修されました。二の丸御殿の大広間、黒書院、行幸御殿の3方向から鑑賞できるように工夫されています。





④ 二の丸御殿［国宝］

東南から北西にかけて、遠侍、式台、大広間、蘇鉄の間、黒書院、白書院の6棟が雁行形に立ち並ぶ御殿です。部屋数33室、800畳余りもある内部は、代表的な「松鷹図」をはじめ、将軍の威厳を示す虎や豹、桜や四季折々の花を描いた狩野派の障壁画（模写画）で装飾されています。

国宝 二の丸御殿

二の丸御殿は全6棟の建物からなり、江戸初期に完成した住宅様式である書院造の代表例として日本建築史上重要な遺構です。江戸城、大坂城、名古屋城の御殿が失われた今日、国内の城郭に残る唯一の御殿群として国宝に指定されました。

内部は、日本絵画史上最大の画派である狩野派による障壁画と、多彩な欄間彫刻や飾金具によって装飾されており、将軍の御殿にふさわしい豪華絢爛な空間となっています。



二の丸御殿の障壁画

二の丸御殿には、寛永期の障壁画を含む約3600面の障壁画が残されています。1982年（昭和57年）には、そのうち1016面が国の重要文化財に指定されました。寛永期の障壁画は、1626年（寛永3年）の後水尾天皇の行幸のために大改築された際、幕府御用絵師であった狩野派の若き棟梁・狩野探幽が一門の総力を挙げて制作したものです。

❶ 遠侍 一の間・二の間・三の間

遠侍は来殿者が控える場所で、二の丸御殿最大の建物です。来殿者が最初に立ち入るこれらの部屋は、襖や壁の絵から「虎の間」とも呼ばれています。獰猛な虎の絵や壮大な空間は徳川家の権力の大きさを実感させたと思われます。

遠侍 三の間 竹林群虎図

❷ 式台 式台の間

式台は、将軍への用件や献上物を取次ぐ場所とされています。表の「式台の間」と裏の「老中の間」からなります。式台の間は、老中と大名が挨拶をし、将軍への取次ぎが行われたとされる部屋です。障壁画には、永遠に続く繁栄を表すおめでたい植物として松が描かれています。

❸ 大広間 三の間

厚さ35センチの檜の板を両面から透かし彫りした欄間の彫刻や、大広間や黒書院の柱に取り付く花熨斗形（はなのしがた）の長押金具は大変豪華で見ごたえがあります。

大広間 三の間（欄間）

二の丸御殿の廊下

歩いて体感

人が歩くと鳥の鳴き声のような音がなることから、「鶯（うぐいす）張り」と呼ばれています。音は図の通り、目かすがいと釘のこすれによって生じています。

文化財の保護のため御殿内は撮影禁止です

❹ 大広間 一の間・二の間

将軍と大名や公卿衆との公式の対面所です。大広間の主室であり、一の間（上段の間）、二の間（下段の間）からなります。一の間は、書院造りの特徴である床の間、違棚、付書院、帳台構を備えています。対面の際には、将軍は一の間で南を向いて座し、床の間に三幅対の掛軸をかけ、違棚や付書院には工芸品などを飾ったとされています。障壁画は狩野探幽筆です。



大政奉還が表明された大広間 二の間から一の間を見る

❺ 黒書院

江戸時代の名称は「小広間」で、大広間に次ぐ公式の場です。将軍と徳川家に近しい大名や高位の公家などが対面しました。一の間と二の間は、満開の桜が目を惹くことから「桜の間」と呼ばれ、将軍が背にする、かすかに雪をのせた松の枝に加え、梅の花や散りゆく桜を交えることで、季節の流れを感じさせます。襖絵は探幽の弟・尚信筆です。



黒書院 二の間から一の間を見る



黒書院 牡丹の間

❻ 白書院

江戸時代には「御座の間」と呼ばれることから、将軍の居間と寝室であったと考えられています。水墨画に包まれる空間は他の棟と趣が異なり、落ち着いた印象をあたえます。中国由来の題材が選ばれ、一の間と二の間は名勝・西湖が、三の間には伝説や歴史上の人物が描かれています。

❼ 大広間 四の間

将軍の上洛のときに武器をおさめた場所といわれています。障壁画の「松鷹図」は、二の丸御殿の中でも最も有名なもので、桃山時代の様式を取り入れた巨大な松と勇壮な鷹が描かれています。



大広間 四の間

❽ 式台 老中の間

3部屋からなり、老中が控えていた部屋です。一の間と二の間は「芦雁図」で、三の間は「柳鷺図」です。長押上は白壁のままで質素な造りです。





式台 老中の間

❾ 遠侍 勅使の間

遠侍の部屋の一つで、朝廷からの使者（勅使）を迎えた対面所とされています。障壁画には、優美な檜や青楓などが描かれています。



遠侍 勅使の間

❿ 遠侍 柳の間

障壁画は、「勅使の間」や隣接する「若松の間」や「芙蓉の間」と同様に植物を題材としており、公家向けの趣を持っています。